

石巻市博物館では、石巻市博物館×武蔵野美術大学 企画展「民具のデザイン図鑑——くらしの道具から読み解く造形の発想——」を開催します。

本展で展示する民俗資料は、武蔵野美術大学美術館・図書館が美術資料のひとつとして所蔵する民具で、その規模は9万点を超えます。民具とは、一般の民衆が日々の暮らしのなかで生み出し、使い続けてきた暮らしの造形資料です。

本展は、民具コレクションと

しては日本屈指の規模を誇る武蔵野美術大学のコレクションと、石巻市博物館所蔵の民俗資料のコレクションによって、民具のデザインの魅力と石巻の民具の特色を知ってもらうために企画しました。そうした民具に対して、本展では次の3つの視角を設定します。

① 日常的な労働や身の丈にあった生活に即した造形（かたちと身体性）

② デフォルメされた造形が意味を生み出し、共有する造形（ユーモアと図案）

③ 自然に宿る精霊や神仏を表現し、その霊性を暗示する造形（見立てと表象）

石巻市博物館の民俗資料は、東日本大震災で被災して文化財レスキューされ、保存のための安定化処理を終えて、現在は市内収蔵施設において経過観察と整理作業が継続されています。今後は、地域文化を示す貴重な資料として、展示や普及活動のために積極的に活用していきます。本展をきっかけとして、文化財レスキュー活動によって救われた貴重な民俗資料についても、知ってもらえれば幸いです。

民具

の

1
かたちと身体性



三つ手籠

デザイン

図鑑

5.27 sat.
8.20 sun.



2
ユーモアと図案

バラモン風 長崎県



令和5年

3
見立てと表象

手交り「タルマヒバチ（達磨火鉢）」山口県

オープニング記念

学長トーク「美術の豊かさ、デザインの可能性」

日時=2023年5月27日(土)

語り手=榊山祐和(武蔵野美術大学学長)

場所=マルホンまきあーとテラス 企画展示室前ロビー

※申込不要、参加無料、定員50人

武蔵野美術大学学長に、自身の油絵の画業と大学での美術教育、絵本作りと民具などについて、ざっくばらんに語っていただく美術談話。

トーク・セッション

民具とデザインでこんなこともできる！
美術大学から提案するコレクションの可能性

日時=2023年7月1日(土)13:00~15:30

話題提供=加藤幸治(武蔵野美術大学美術館・図書館副館長)

杉浦幸子(同 芸術文化学科教授)

西川 聡(同 工芸工業デザイン学科教授)

大石啓明(同 デザイン情報学科准教授)

コメント=神野善治(日本民具学会会長・武蔵野美術大学名誉教授)

場所=マルホンまきあーとテラス 小ホール

協力=武蔵野美術大学共同研究「美術大学における民俗資料の活用をめぐる基礎的研究」

※申込不要、参加無料、定員300人

地域での生活文化を伝える民具は、美術とデザインの制作や教育においても、造形のアイデアやヒント、直感などを与えてくれます。武蔵野美術大学の研究者や作家の実践から、今後の博物館の民俗資料の可能性について考えてみたいと思います。

ワークショップによる展示

民具のその先へ

日時=2023年8月8日(火)~8月20日(日)

企画=鈴木康広(武蔵野美術大学空間演出デザイン学科教授)

加藤幸治(武蔵野美術大学美術館・図書館副館長)

山内優仁(東京大学大学院博士後期課程)

場所=マルホンまきあーとテラス 企画展示室前ロビー

協力=重吉興業株式会社

企画展の関連企画として、武蔵野美術大学の空間演出デザイン学科の学生や卒業生たちが、5月から石巻市内でフィールドワークを行います。そして地域文化と民具について問いを深めながらワークショップの過程で作品制作をし、展示します。

交通アクセス

公共交通をご利用の場合

■仙台駅→石巻駅

[電車] JR仙石東北ライン…仙台駅1~6番ホームから乗車で約60分 | JR仙石線…仙台駅9~10番ホームから乗車で約85分

[高速バス] ミヤコーバス…仙台駅前 西口エデン前21番乗り場から乗車で73分

■石巻駅→マルホンまきあーとテラス

[タクシー] 石巻駅前タクシー乗り場から乗車で約10分

[路線バス] 石巻駅前3番乗り場から石巻専修大学線に乗車で13分 総合運動公園(石巻)下車 徒歩約2分

お車で越しの場合

■三陸自動車道 石巻女川ICより約5分

駐車場無料(347台)

